

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況

事業所名	すばる				
事業種別	共同生活援助				
開催日時	令和 7 年 7 月 22 日 火曜日 10:00 ~ 11:30				
開催場所	グループホームぎんが				
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)	
	利用者	1名		名	I委員
	利用者家族	2名		名	M委員、L委員
	地域の関係者	1名		名	K委員(地域の理容店オーナー)
	福祉に知見のある人	1名		名	S委員(北斗市役所福祉課職員)
	経営に知見のある人	名		名	
	施設職員	5名		名	H管理者、H課長補佐、O支援員、M支援員、H支援員

2. 議題内容

1. 参加者の自己紹介

2. 会議趣旨および事業概要説明(H管理者)

- 令和7年度より障害福祉サービス事業の居住系事業所において、会議の定例開催が義務化されたことを説明。
- 介護会員およびサポートすばるの事業概要説明。入居者の一日をVTR等で説明する。

3. 参加委員からのご意見およびご感想

・S委員(北斗市福祉サービス課)

視覚化や構造化支援など実際どうやっているのか、実際に本人たちがどう利用しているかというと、意外と知られていないことが多いのでは。今日、実際に見学し、なるほどという感想を持ちました。全国レベルで、障害福祉の方向性として、住まいを入所施設から地域へということが目指されていますが、ただ単に入所施設からグループホームに移ればいいやという話になりがちです。居住の場を単に入所施設からグループホームに移り、日中の暮らしは、これまで通り通所事業所に通われるのであれば、これまでと何の変わりもない。地域の方たちにどうやって接点を持つのかが大切になるのではと思います。地域の方々一人ひとりの協力が必要です。北斗市としてもどのように啓蒙していくのかというのが、これから課題だな実感しています。地域との連携の事例としては、農副連携というかたちで試行的事例として介護会員の入所施設の利用者1名が取り組みを開始されています。あとは、地域でのお祭りなどを通じて徐々にでも交流が増えていくことを期待しています。

・M委員(ご家族代表)

先日、亀田交流センターにてセミナーがありました。そういうセミナーをもっと積極的に介護会員にて開催していただきたいです。私たち両親ははもう60歳を過ぎて、もう自閉症の子供に接するベテランです。

だいたい行動パターンもだいたいわかるし、その構造化支援っていう意味も理解できます。しかし、若いお父さんお母さんたちは、そういうことを学ぶ機会に窮しているのではと思います。是非、すばるとしても介護会員としてもこれからも、そのような機会の拡大に貢献していただきたいと思います。

・L委員(ご家族代表)

自分の子供が自閉症と診断されたとき、私には絶望しかなかありませんでした。いまではたくさんの連携のもと個人がそれぞれにその人らしく生活している様子を窺い知り、本当に感謝しています。今後とも宜しくお願いします。

・K委員(地域住民代表)

私は、グループホームの皆さんを利用してくれている理髪店を営業しています。感覚過敏などで理髪が苦手な利用者や、支払い場面でサポートが必要な方への取り組みに関して、事業所職員の方と事前に打ち合わせしながらこれまでやってきましたので、今後も何かあれば、自分のできる限り協力させていただきたいです。

・H課長補佐(事業所職員)

利用される方たちと接する中で、ご本人たちがわからない部分、困っている部分どこにあるのかという点をしっかりと拾い上げて、支援していければなど感じています。何かあればご意見を頂けると、すばるとても大変助かります。

・O支援員(事業所職員)

今回の会議にて意見交換等を通じて、私たちの支援について客観的に振り返ることができました。自分たちではなかなか気付きませんが、委員の皆様からのお話を聞いて、僕らは頑張れているのだなと思うことができました。ありがとうございます。支援の積み重ねがあって、少しずつより豊かな生活に近づけられたらと思います。その中で地域にどんどん活動してどんどんネットワークを作っていくべきなと思いました。

・M支援員(事業所職員)

普段から理容院のKさんにものすごく協力してもらっていますし、近くのセブンイレブンでも、ある利用者の単独での買い物においても、店員さんが見守っていただき日頃の連携に感謝しています。もっと自閉症という特性等について知ってもらうことがすごく大事だと思っています。Mさんが仰っていたように、やっぱりセミナーなど広く実践を伝えていく場が必要だと感じています。自分たちができることを、どんどんやっていきたいなと思います。

・H支援員(事業所職員)

皆さんの貴重なお話を聞くことができて、さらに利用者一人ひとりの立場に立って、今後も支援していきたいと思いました。

・H管理者(事業所職員)

見守りカメラの設置について、すばるの3つのホームには設置されていないが、法人内の入所施設には設置されている。グループホームに見守りカメラを設置することについては、プライバシー保護の観点について導入には丁寧に検討する必要を感じている。法人外の他のグループホームでは、共有部分に見守りカメラが設置されていることが一般的であり、そのメリットとして、不測の怪我の原因を特定しやすくなることがあります。見守りカメラの設置に関して、利用者や家族の確認を取ることが重要であり、虐待の抑止力にもなると考えています。設置には高額な費用もかかるため、安直に結論を急がず丁寧かつ慎重に検討していきたいと思っています。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

上記2参照

4. その他

1施設内設備の見学

- ・2グループに別れグループホームぎんが内の居室、共有空間などを見学。
- ・M委員より照明器具のLED化などを計画的に実施されてはどうだろうかなどのご意見をいただく。

令和 7 年度 第1回 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	つぐみ荘					
事業種別	グループホーム(共同生活援助)					
開催日時	令和 7 年 10 月 16 日 木曜日 14:00 ~ 16:00					
開催場所	つぐみ荘					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1名	名			
	利用者家族	1名	名			
	地域の関係者	1名	名			
	福祉に知見のある人	名	名			
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	3名	名	所長、課長補佐2名		

2. 議題内容

1. 所長挨拶

令和7年度より、障がいサービス分野において地域連携推進会議の開催が義務化されました。これは利用者と地域との関係づくり、利用者の権利擁護、施設運営の透明性を高めることなどを目的としています。当事業所の運営状況をご報告すると共に、今後のサービス向上のため、皆さんからご意見を賜りたく存じます。なお会議後6カ所のグループホームの見学を実施予定ですが時間の都合上全て回りきることが難しかった場合、グループホーム内の写真などを添付した資料を用意したいと考えています。本日はどうぞ宜しくお願ひいたします。

2. 出席者自己紹介

3. 施設概要について

- 別紙資料① 指定共同援助事業所(グループホーム)つぐみ荘 要覧の説明
- ・事業所の概要(グループホームの設備、職員体制・勤務状況等)、サービスの概要(日常的な支援等)、利用料等について
- ・生活支援員と世話人の役割の違いについて
- ・食事について
- 別紙資料② ゆうあいの郷について(当別地区・七重浜地区・久根別地区・石川地区)
- 別紙資料③ 沿革 サポートはまなすの前身となる事業所の説明
- 写真紹介

4. 事業所案内

- ・グループホーム6カ所
- ハイツ村川、ハイツ村川Ⅲ、たちはな、たちはなⅡ、おしま荘、ともえ荘
(視察できなかったグループホーム:ハイツ村川、たちはなⅡ、おしま荘)

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

○地域住民代表

・事業所名の掲示について

(所長)各グループホーム名の表札は設置している。地域の方々とは挨拶を交わしたり、ご高齢の隣人宅の雪かきを手伝うなど関係性を築いている。

・自然災害避難訓練についてどのような避難訓練を実施したか。周辺は平地のため津波対策も必要な地域。大災害を想定することももちろん大切だが、小さい災害から想定した訓練を実施した方が良いと思う。

(所長)先日法人全体で自然災害(洪水)を想定した避難訓練を行った。海の近くに立地しているグループホームもあるが、まず津波が来た場合は垂直避難を行う。当事業所には夜間支援者は配置していないため、どのように避難するか課題である。万が一の場合は地域の方々のご協力もお願いしたいと考えている。

7月30日に発生した津波警報の状況について、通所している利用者は通所事業所で避難、仕事が休みの方や静養している利用者は、つぐみ荘に避難した。津波の避難区域のグループホームは、函館市石川町の通所施設や北斗市東前の避難所へ避難をした。集団が苦手な利用者への配慮も必要で有り、避難所の開設状況等については市町村と連携を取っていく必要があると感じた。

・地域連携推進会議の開催回数について

(所長)年1回実施予定。

・グループホームの物件を探す手段について

(所長)現在物件を借りている不動産業者や、以前やり取りをしていた不動産業者に相談していた。

・グループホームを見学し、清潔できれいな印象。強いて言えば、雑草が生えていた。

外観も手入れされていると尚よい。

(所長)意見等を事業所職員へ周知し、改善に取り組む。

○利用者代表

・部屋が狭い。大きい部屋の方が安心できる。

・普段はしいたけ栽培の作業に従事している。アーツや道南ラルズで購入できるので食べて欲しい。

・部屋にベッドを購入することになっている。

○家族代表

・サポートはまなす通信(事業所の発行物)はとても良かった。

・何かあれば事務所から連絡もらっているが、今後も連絡を取り合っていきたい。

・個別支援計画や意向調査のアンケートについて、一人ひとりに支援して見て頂いていることに感謝している。

4. その他

令和 7 年度 第2回 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	つぐみ荘					
事業種別	グループホーム(共同生活援助)					
開催日時	令和 7 年 10 月 24 日 金 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00					
開催場所	つぐみ荘					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名			
	利用者家族	1 名	名			
	地域の関係者	1 名	名			
	福祉に知見のある人	名	名			
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	3 名	名	所長、課長補佐2名		

2. 議題内容

1. 所長挨拶

令和7年度より、障がいサービス分野において地域連携推進会議の開催が義務化されました。これは利用者と地域との関係づくり、利用者の権利擁護、施設運営の透明性を高めることなどを目的としています。当事業所の運営状況をご報告すると共に、今後のサービス向上のため、皆さんからご意見を賜りたく存じます。なお会議後7カ所のグループホームの見学を実施予定ですが時間の都合上全て回りきることが難しかった場合、グループホーム内の写真などを添付した資料を用意したいと考えています。本日はどうぞ宜しくお願ひいたします。

2. 出席者自己紹介

3. 施設概要について

- 別紙資料① 指定共同援助事業所(グループホーム)つぐみ荘 要覧の説明
- ・事業所の概要(グループホームの設備、職員体制・勤務状況等)、サービスの概要(日常的な支援等)、利用料等について
- ・生活支援員と世話人の役割の違いについて
- ・食事について
- 別紙資料② ゆうあいの郷について(当別地区・七重浜地区・久根別地区・石川地区)
- 別紙資料③ 沿革 サポートはまなすの前身となる事業所の説明
- 写真紹介

4. 事業所案内

- ・グループホーム7カ所
- むくどり荘、せきれい荘、はまなす、かりん、来夢、こまどり荘、のどか
- スプリンクラーポンプ室、災害備蓄食料の保管部屋を案内。
- (視察できなかったグループホーム:のどか・せきれい荘・来夢・こまどり荘)

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

○地域住民代表

・掃除当番(役割等)について

(所長)共有スペースの掃除等、分担して行っていただいている。

・グループホームを運営するために設備投資をされていると知った(スプリンクラーや火災通報装置等)。津波警報の避難状況や避難訓練について、有事には地域住民と共同で避難できればよいと思う。

(所長)7月30日に発生した津波警報の状況について、通所している利用者は通所事業所で避難、仕事が休みの方や静養している利用者は、つぐみ荘に避難した。当日、映画を観に外出していた利用者は、映画館へ避難状況を確認し迎えに行った。

津波の避難区域のグループホームは、夕方に函館市石川町の通所施設と北斗市東前の避難所へ避難をした。宿泊を想定していたが、津波警報が解除され、グループホームへ戻っている。集団が苦手な利用者への配慮も必要で有り、避難所の開設状況等については市町村と連携を取っていく必要があると感じた。

先日、法人全体で自然災害(洪水)を想定した避難訓練を行った。海の近くに立地しているグループホームもあるが、まず津波が来た場合は垂直避難を行う。当事業所には夜間支援者は配置していないため、どのように避難するか課題である。万が一の場合は地域の方々のご協力、手助けをお願いしたいと考えている。

水消火器を使った訓練も実施している。過去に調理中に消火器を使用したことがあり、大事に至らなかったが慌てないよう有事に備えていきたい。

○利用者代表

・初めて他のグループホームを見学した、きれいでいた。

・これからも部屋をきれいにしていきたい。

○家族代表

・きれいにして住みやすく支援しやすい工夫がされている。薬カレンダーを活用して薬の準備をしている。

・スプリンクラーや火災通報装置等が設置されていることも初めて知った。

4. その他

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	明和荘					
事業種別	グループホーム(共同生活援助)					
開催日時	令和 7 年 11 月 1 日 土曜日 13:30 ~ 16:00					
開催場所	やすらぎ荘 リビング					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名		名	Y氏	
	利用者家族	1 名		名	N氏	
	地域の関係者	1 名		名	O氏	
	福祉に知見のある人		名	名		
	経営に知見のある人		名	名		
	施設職員	3 名		名	K管理者、K課長、A支援員	

2. 議題内容

1. 開会挨拶と会議主旨について

管理者より開会に向けての挨拶と会議の趣旨について説明がありました。ご家族や地域のみなさまのご理解とご協力を頂きながら利用者支援に取り組み、1年に1回位の開催頻度で会議を行うことを説明する。会議趣旨である下記についての説明をする。

- ①利用者と地域との関係づくり(利用者が地域の一員として暮らせるようつながりを深める)。
- ②地域の方への施設や利用者に対する理解を深める。
- ③事業所やサービスの透明性(サービスの質の確保)。
- ④利用者の権利擁護(利用者の声、意思をサービスに反映させる)。

2. 事業所紹介について

障害者自立支援法の施行とサポートかわつきの開設から、当別地区4軒と久根別地区5軒の地域で生活する利用者の生活全体のサポートを行うまでの経緯や課題の説明を行う。

- ①利用者定員30名、現在は28名の利用者が利用している。
- ②利用者の居室は全室個室で近年中には法人所有のグループホームには個室にエアコンの設置を予定したい。
- ③グループホームの経費は各グループホームで利用している人数で、かかった金額を案分して支払っている。(実費徴収)

3. 利用者状況について

- ①現在、利用者28名、男性14名、女性14名の利用者が利用している。
- ②平均年齢は、男性54歳、女性50歳、全体で52歳となっている。高齢化が進み医療機関への通院頻度がかなり高くなっている状況にある。
- ③日中活動は、一般就労11名、生活介護6名、就労継続支援B型11名となっている。

4. 事業所の取り組みについて

①事故・ヒヤリハットの状況

- ・今年度に入り渡島総合振興局へ報告する事案は起きていない。ヒヤリハット事案については「服薬」関連が多く、大きな事故に結び付くことがないよう、日頃より事案について話し合いの時間を設けている。

②非常災害訓練について

- ・今年度、法人が主催となって行われた自然災害の訓練に参加している。

- ・利用者の避難はなかったが、緊急時のシミュレーション、災害持ち出し品、備蓄等の保管場所について確認を行っている。実際に明和荘、やすらぎ荘では数年前に建物前の小さな河川の氾濫があり避難した経験がある。

③地域とのかかわりと参加について

- ・町内会費、赤十字募金や町内会会合へもできる範囲で出席している。

- ・また、毎年行われている海浜清掃に参加していると利用者からの話が聞かれている。

- ・町内会での催しについても利用者が参加して楽しんでいる。

④虐待防止について

- ・毎年、年度初めに研修会への参加や学習会、グループワークについて1年間の計画を立てて支援者会議の場で実施している。

- ・現在のところ、虐待事案はない。年に4回利用者への接し方アンケートの実施や具体的行動規範と自己評価を行い、行動の振り返りを行っている。

5. グループホーム見学について

- ・当別地区4軒、久根別地区5軒のグループホームを見学いただき、共同生活場所と居室、環境について案内している。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

- ・障がい者のグループホーム自体、世間では十分に知られておらず、老人のグループホームと同じ認識をされている面がいまだにあると思う。世間にも違いを知ってほしいと思うことがある。
- ・地域によって過疎化が進み住んでいるグループホームの近くに店がなく、また、交通機関の不便さもある。買い物外出などが思うようにならないことがあるようだが、定期的に職員が付き添って買い物や行事に外出することができているようであり安心している。
- ・生活寮時代からあるグループホームであるが、時代に合わせて形態が変化していることがわかった。利用者のニーズに合わせた体制になっていると感じた。
- ・事業所で9カ所のグループホームを支援していると知らずにいた。実際に見学し、生活の様子を見ることができてよい機会になったと思う。

4. その他

明和荘で話し合った結果と今後について

- ・会議の準備に関わったが、分かりやすい資料の作成を考えながら作成した。グループホーム開設の意図など分からなかった面もあり参考になった。
- ・役割分担が曖昧で全体的に会議に関する動きが分かりにくく、出席者のみで準備をすすめてしまった。
- ・会議の中で事業所内の取り組みについては紹介したが、現在と将来性についての課題についてはふれることができず次回に結び付ける話題が不明瞭となってしまったように思う。
- ・形式にとらわれず和気あいあいとした雰囲気の中で情報交換が行われたように思う。初めての開催で活発な意見交換には至らなかったが次回につなげていきたいと思う。

令和 7 年度 第3回 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	つぐみ荘					
事業種別	グループホーム(共同生活援助)					
開催日時	令和 7 年 11 月 4 日 火曜日 10:00 ~ 12:00					
開催場所	つぐみ荘					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名			
	利用者家族	1 名	名			
	地域の関係者	1 名	名			
	福祉に知見のある人	名	名			
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	3 名	名	所長、課長補佐2名		

2. 議題内容

1. 所長挨拶

令和7年度より、障がいサービス分野において地域連携推進会議の開催が義務化されました。これは利用者と地域との関係づくり、利用者の権利擁護、施設運営の透明性を高めることなどを目的としています。当事業所の運営状況をご報告すると共に、今後のサービス向上のため、皆さんからご意見を賜りたく存じます。なお会議後7カ所のグループホームの見学を実施予定ですが時間の都合上全て回りきることが難しかった場合、グループホーム内の写真などを添付した資料を用意したいと考えています。本日はどうぞ宜しくお願ひいたします。

2. 出席者自己紹介

3. 施設概要について

- 別紙資料① 指定共同援助事業所(グループホーム)つぐみ荘 要覧の説明
- ・事業所の概要(グループホームの設備、職員体制・勤務状況等)、サービスの概要(日常的な支援等)、利用料等について
- ・生活支援員と世話人の役割の違いについて
- ・食事について
- 別紙資料② ゆうあいの郷について(当別地区・七重浜地区・久根別地区・石川地区)
- 別紙資料③ 沿革 サポートはまなすの前身となる事業所の説明
- 写真紹介

4. 事業所案内

- ・グループホーム7カ所
- つぐみ荘、さくら荘、くぬぎ荘、あかね荘、やまぶき荘、はまわけ荘、ともよし荘
(視察できなかったグループホーム:さくら荘・あかね荘・ともよし荘)

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

○地域住民代表

・利用条件

(所長)知的障がい者の方々を対象としている。また障害福祉サービスは障害支援区分によって利用できるサービスが異なっている。

・新しい建物と古い建物が混在していたが、室内は整理されているように感じられた。

○利用者代表

・また会議に参加してもよい。

○家族代表

・居室の広さなど十分住みやすい。

・居室にエアコンが設置されたのは良かった。

・これからも今まで通りにお願いしたい。

○事業所職員

・グループホームを運営するにあたり、火災通報装置を設置。

・海の近くに立地するグループホームもあるが、津波発生時にはます垂直避難を行う。

当事業所には夜間支援者は配置していないため、万が一の際には地域の方々のご協力やご支援をお願いしたいと考えている。

4. その他

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況

事業所名	サポートカーム				
事業種別	グループホーム(共同生活援助)				
開催日時	令和 7 年 11 月 18 日 火曜日 18:00 ~ 19:30				
開催場所	カーム1 パストラルタウンMS101				
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)	
	利用者	1 名		名	D氏
	利用者家族	1 名		名	C氏
	地域の関係者	2 名		名	久根別パストラル町会A氏、B氏
	福祉に知見のある人		名	名	
	経営に知見のある人		名	名	
	施設職員	4 名	2 名	名	E施設長、F課長補佐、Gサビ管、H支援員

2. 議題内容

1. 事業所からの報告

- ・はじめのあいさつ
- ・地域連携推進会議の説明(目的、内容、効果)
- ・参加者紹介
(議題)

1. グループホーム見学(カーム6・ポンコパン6・カーム1 アパート)
2. 運営にあたって
3. 事業所概要説明(沿革、職員体制、職務組織、日課表、年間行事計画、利用者状況)
4. 意見交換他地域連携推進会議の目的について

2. 見学～カーム6(男性)・ポンコパン6(女子)・カーム1(アパート)

カーム6、ポンコパン6共に、玄関、廊下、非常口、食堂、トイレ、洗面所、浴室などを見ていただき、車椅子や歩行器を利用する方、転倒リスクの高い方も多いことなど介助度やバリアフリー環境について主に説明している。また、事前にご本人の了承を得て、4名の方の居室の見学と、参加者の方達とのコミュニケーションを図り、それぞれの特性や支援について簡単に説明している。また勤務の写真入りボードを見ていただき、世話人・夜勤者・職員の役割について説明している。参加者から現場で食事の準備、服薬準備と支援について質問があった。

3. 運営にあたっての説明

サポートカームは2007年4月に開設され、現在は北斗市久根別を中心に13か所のグループホームに居住している方たちのサポートをおこなっている。現在は47名の方々が生活されている。形態としては①賃貸の戸建て住宅②法人保有の戸建て住宅③賃貸アパート2LDKタイプ④サテライト型のグループホーム(一人で生活するタイプ)の4タイプがあり、それぞれのニーズに応じて入居されている。1人ひとりの障がいの状況や特性に応じた、個別的な支援を提供することで、利用される方々がその人らしく自立的に地域で生活できるように支援をしている。

4. 各グループホームの説明

全グループホーム(11カ所)について、外観、居間や居室(ご本人了解)の画像資料、利用者性別、平均年齢、平均障害支援区分、日中活動先の画像での仕事や作業、活動内容などの説明。

5. E施設長より概要説明

(説明:施設長より)

- ・地域連携推進会議は障がいグループホームの事業運営の透明性を高め、「風通しの良い」施設にすることを目的とし、その背景には閉鎖的な環境による権利侵害や虐待防止、更に支援の質の向上があり、外部からの視点を取り入れることの重要性を強調し、最終的には地域との共生社会を目指すことが説明している。
- ・続いて、「カーム」全体の概要説明が行った。定員49名実員47名、設置数や地域の説明、各グループホームの特徴、入居者の性別、平均年齢、支援区分などが紹介した。支援区分は1から6まであり、数字が大きいほど手厚い支援が必要であることを説明した。
- ・職員構成について、職員(支援員)、世話人、夜勤者の職務の違いについて説明し、支援員は各グループホームを巡回しながら通院や買い物などの支援を行い、世話人(パートタイマー)は食事や家事を中心に担当していること。夜間支援については、定年後の年配の方も多く、見守り役として勤務し、緊急時には職員が駆けつける体制が取られていることが報告した。
- ・経済面では、利用者の収入源として障害基礎年金が主であり、就労継続支援B型を利用する方でも工賃は月に高くて1万5千円程度と限られていることを説明した。例を示し、グループホームでの生活費(家賃、食費、光熱費など)を支払うと、手元に残るのは多くても2万円弱という厳しい経済状況を報告した。
- ・次に支援の理念について、権利擁護と虐待防止が最重要であり「当たり前の生活が当たり前に送れる」環境の確保や、利用者の方々の希望を聞いて意思決定支援を実現することが使命であることを強調した。また、個別支援計画の重要性についても触れ、半年に一度の計画立案と評価が法律で義務付けられていることも加えて説明した。

6. 意見交換

- ・夜間支援が必要な場面はどういうところか?
→高齢化などで機能低下し排泄場面での見守りや介助
- ・各居室の清掃はどうしているか?
→自分でできる部分はおこなっていただき、それ以外は世話人さんや職員がお手伝いしている。
- ・参加者から印象として、男性のグループホームより女性グループホームの方が明るい雰囲気と感じたとのこと。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

- ・全般を通じて参加者からは、説明を受け、自立のための支援をしていることがわかったとの感想をいただいた。また、参加者間で地域との連携について議論が行われ、大きな施設から地域への生活へという流れがあることを確認したなかで、過去の支援費制度を発端に利用者の方本人の意思が重視されるようになったこと、一方で、現在はグループホームへの入居希望者が多く、待機者も多く、同時にそれぞれのニーズに対応できる支援の幅の充実が求められているのではとの意見をいただいた。
- ・会議の後半では、地域との連携について具体的な議論が行われ、地域のお祭りへの参加や、クッキーの販売などを通じて地域住民との交流を深める提案が、町内会参加者、保護者からなされた。より地域住民の方にも知ってもらうために、同じ場所にいて一緒に取り組む内容を今後検討してみてはどうか。実現するためにできることとして、町内会の行事や、春の環境整備(ゴミ拾い)への参加の検討。単に参加するだけでなく、何らかの形で貢献できる方法を模索すべきという意見が出されました。今後の取り組みとして、町内会への加入や地域行事への積極的な参加を検討することが合意され、まずは来年8月末に予定されている地域のお祭りへの参加について具体的に検討することになった。
- ・その他、今後の会議のあり方については、他のグループホームも見学含め今回のような流れでも良いが、何かモデル的なことを一つ取り組んでみてはどうかとされた。

4. その他

ふり返り(11月19日に実施／会議に参加した職員のうち4名)

- ・第一回目の会議開催という事で、まずは事業所を知ってもらうことを優先に3か所のグループホーム見学と説明を主としたが、全体を1時間半で設定し意見交換の時間が30分弱となった。後半にかけ、議論も活発になったことや、利用者さんの意見も引き出すなど、もう少し意見交換の時間に余裕があったほうが良かったように思う。今後は時間配分の検討が必要と思われた。
- ・また、カームについては11カ所のグループホームがあり、今回はカーム1のパストラル町会を中心する参加者とさせていただいたが、他の久根別地区また函館の石川ばれっとなど、広範囲なので更に参加町会の分散化や、会議回数とグループ分けによる会議体制の検討が今後必要と考えている。
- ・また、1回目は事業所概要の説明と、見学が主となつたが、年1回の訪問で本来の風とおしの良い外部の目や仕組みに現実的にはならないと考えるので、会議の回数が業務負担ならず、かつ適性な内容と、地域との日常的な連携や協力に現実的に結びつくようなあり方を、今後検討していく。